

# 荒川太郎右衛門地区自然再生事業

---

荒川太郎右衛門地区自然再生協議会

現地植物等調査会

開催報告

平成16年10月31日

荒川上流河川事務所

# 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会 現地植物等調査会 開催報告

開催日：平成 16 年 9 月 29 日（水） 10：00～15：00

場 所：荒川太郎右衛門地区現地（上池、中池、下池）

参加者：23 人（学識経験者 1 人、地方公共団体委員 1 人、公募委員 13 人、一般参加 3 人、事務局 6 人）

---

荒川太郎右衛門地区自然再生協議会 現地植物等調査会を開催しました。

## 1. 講師の紹介



柚木 秀雄 さん

（財）埼玉県生態系保護協会 研究員

現地植物等見学会に同行いただき、植物に関する説明をしていただきました。

## 2. 現地見学会の様子

[上池]



エキサイゼリの生育環境の確認



ナガボノシロワレモコウ

- ・上池右岸にある、エキサイゼリの生息環境の確認を行った。春季以外の時期には見つけることが難しく、確認することはできなかった。エキサイゼリは日本にしか生育せず、荒川を代表する貴重な植物の一つである。
- ・上池左岸の堤防法面にて、ナガボノシロワレモコウが確認された。本来は、もっと湿地帯に生育している植物である。



ススキ



オギ

- ・上池右岸の堤防法面においてオギとススキの違いを観察した。株立ちでもみの先端から硬い茶色の毛「ノギ」が一本生えているものがススキ、「ノギ」が生えていないものがオギである。

[中池]



上池と中池の連結部を見学



左岸から右岸の河畔林を見学



セイタカアワダチソウ



タカサブロウ

・中池はヒシ マコモ ヨシヤナギ類、クヌギ等といった、荒川中流部の典型的なエコトーンが形成されている。

・中池の河畔林には、クヌギ、シンジュといった高木が確認された。

・中池右岸の河畔林周辺にはセイタカアワダチソウが多く確認された。セイタカアワダチソウは他の植物の発芽を抑制する成分を放出しながら増殖しており、この成分の蓄積によって自己中毒を起こし増殖から数年

後には減少する傾向が確認されているとのことである。

・中池右岸の耕作地周辺ではタカサブロウと外来種のアメリカタカサブロウが確認された。よく似ているが葉と種子の形の違いにより判別ができる。

[下池]



ミゾコウジュ



ハンノキ林

・中池と下池の境界の横堤斜面において外来種のアレチウリが確認された。アレチウリはウリ科のつる性植物で、他の植物を覆い、枯らしてしまうことで問題になっている。

・下池右岸の田の畦において

希少種であるミゾコウジュが確認された。春から初夏にかけて生長する植物で、秋季には写真のようなロゼット状で確認される。

・下池右岸のハンノキ林脇において希少種のカントウヨメナが確認された。秋の七草の一つで、秋に白～ピンク色の花をつける。

・カントウヨメナが確認された。ノコンギクに似ているが、実の周りの冠毛がないことで判別ができる。

・太郎右衛門地区に広がるハンノキ林は老齢化が進んでいる。ハンノキ林の中は高木が日光を遮り、幼木が生育できる環境になっておらず、天然更新を促す必要がある。また、ハンノキは埼玉県の蝶で、希少種であるミドリシジミの食樹であり、重要な生息環境となっている。

以上